

第3章 まちづくりディスカッションの検証と評価

第4次基本計画策定に向けた「みたかまちづくりディスカッション」は、三鷹市とNPO法人みたか市民協働ネットワークがパートナーシップ協定を締結し、協働で推進した取り組みである。

三鷹市で4回目の開催となる今回のまちづくりディスカッションの主な特徴は、以下のとおりである。

- (1) NPO法人みたか市民協働ネットワークが平成22年度に実施した「市民コーディネーター養成講座」の修了者を中心とする実行委員会を設置し企画・運営を行った点
- (2) 参加者100人規模での開催とした点
- (3) 4つのテーマについて、同時進行で運営を行った点

以上の3点をふまえ、実行委員会で検証と評価を行った。

なお、今回は基本計画策定に反映させるための開催であったため、三鷹市から実行委員会に対し、基本計画の方向性に沿ったテーマが示されたので、テーマ設定についての検証は行わなかった。

I まちづくりディスカッションの有効性

1 質の高い提案

約96%の参加者が、初めての市民参加だったにもかかわらず、各テーマ、各回ごとに密度の濃い話し合いが行われ、結果も三鷹市の基本計画素案に反映すべき質の高い内容となった。

2 参加者の高い満足度と参加意識の高まり

最後に行ったアンケートによれば、今回の参加により三鷹のまちづくりへの関心が、「とても高まった」(約47%)と「まあ高まった」(約51%)を合わせると約98%であった。今後市政に参加する機会があれば、「参加したい」が約92%であり、今回のような無作為抽出による市民参加については、「続けるべきだ」が100%という結果となった。(P.113~114参照)

なお、今回は従前がない丸2日にわたって討議を行うというハードなスケジュールを終えた後にもかかわらず、終了後に行われた交流会には予想を超える参加があり、参加者の高い満足感が伺えた。

これらの結果から、今回の取り組みにより、市政に関心をもち、三鷹のまちづくりに主体的に参加する市民の拡大につながったと言える。

II 検証と評価(プログラム編)

1 プログラム設計

参加者がまだ慣れていない第1回の話し合いでは、議論が進みにくいグループも多少あったようだが、プログラム設計によるものではなく議論に慣れるための時間であったようだ。第2回以降はすべてのグループにおいておおむねスムーズに話し合いが行われ、設問内容は適切だったと思われる。

今回は、テーマが三鷹市の基本計画ということもあり、実行委員会において行政による難しい用語を平易な言葉に置き換えたり、設問内容の表現を工夫した点がよかった。

また、今回は4テーマを同時進行で行った。会場のスペースの問題など、多少の不便はあったものの、2日間の設定の中で幅広いテーマを話し合うためには有効であり、一度に多くの成果が得られるという点で効率的であったと言える。

2 情報提供

情報提供者とのやり取りを重ねながらプログラム設計をする必要性については以前から課題として挙げられていたが、今回は、情報提供者との事前打ち合わせにより設問を調整した箇所もあり、その点は良かったと言える。なお、設問の内容や情報提供については、直接、参加者のアイデアや意見に影響を与えるものなので、今後も十分に検討する必要がある。

また、今回は4テーマそれぞれが大きいテーマであったため、情報提供は、各話し合いごとに行わず、1日目と2日目にそれぞれ1回ずつまとめて行ったが、テーマによっては、各話し合いごとに行う場合も考えられる。

3 時間配分

全体としては良い時間配分だったが、2日間の長丁場だったので、高齢者にとっては体力的にやや厳しい点もあったかもしれない。ただ、「まちづくりディスカッションの有効性」の項で述べたように、参加者の高い満足感を考えると、ある程度の話し合いの内容と回数をプログラムに盛り込むことは必要である。

1回ごとの話し合いの時間配分については、最後に、コーディネーターが、模造紙に書き漏れがないかどうか確認する時間をとった方がよいとの指摘がコーディネーターからあった。また、話し合いの進行中、時間の進み具合をプロジェクターで映すなど、ビジュアル面の工夫があると参加者に分かりやすいとの提案もあった。

4 話し合い体制

運営のコーディネーターは、すべて「市民コーディネーター養成講座」を修了した市民コーディネーターによって行い、市民による市民参加の取り組みとして公平性・中立性の点でよかった。

毎回のことであるが、参加者の話し合いのルールに対する適応能力がすばらしく、第1回の話し合いの後、自発的・積極的にコーディネーターに協力してくれる場面が数多く見受けられ、活発な話し合いが行えた。話し合いに慣れた人と慣れない人が混在して話し合いに臨むため、相当なコーディネーター能力が必要とされるが、昨年度全5回の講座で技術を学んでいたため市民コーディネーターが臨機応変な対応ができ、スムーズに進行できた。

グループの入れ替えについては、話し合いの場を新鮮に保つうえでも、また平等に意見を出しやすくするうえでも必要なこととの結論が出た。

5 話し合いの内容と投票

いずれのテーマにおいても、話し合いの回数を重ねるごとに内容が深まり、最後の第5回話し合いにおける設問「基本計画に盛り込んだ方が良くと思うアイデア」に対する「まとめ」の意見では、さまざまな観点から質の高い意見が出された。ただし、テーマ設定が大きいものであったので、「まとめ」の意見も大きな方向性を示すものから具体的な施策まで幅広いものとなった。

投票については、違う表現ではあっても同じような意見については、投票が難しい場面があったかもしれないが、1回の投票にシールが6個配付されたため気軽に投票できたと思われる。

Ⅲ 検証と評価（運営編）

1 市民コーディネーター養成講座（平成22年度事業）

基本計画策定に係る「市民コーディネーター養成講座」（全5回）は、平成23年2月16日～3月30日の期間、市とNPO法人みたか市民協働ネットワークとの協働で開催された。三鷹青年会議所、三鷹商工会、JA東京むさし三鷹地区青壮年部、住民協議会、地域自治組織、コミュニティ・スクール委員会、NPO等々の多様な団体から参加した受講者のうち、6割のメンバーがまちづくりディスカッションの未経験者であったが、どの受講者からも三鷹市の状況や市民参加の手法への理解が深まり、たいへん良い経験となったとの感想が聞かれた。そして、今回のまちづくりディスカッションの企画・運営に大きな役割を担ったことから、講座開催の目的は達成されたと言える。

講座の開催について、今回は5回に分けて開催したが、5回すべて出席することが難しい市民も多いため、日程のあり方を検討すると良いとの意見もあった。

2 実行委員会

実行委員会は、前項で述べた「市民コーディネーター養成講座」の修了者37人に、講座の講師を実行委員長とする38人体制で設置され、プログラム設計から当日の運営にいたるまでの役割を担った。養成講座の内容を実践で活かすことができたことでコーディネーターとしての経験を深められた。この貴重な体験が、三鷹市の今後のまちづくりの人的財産として活かされることが期待される。

また、多様な市民が実行委員会に参加したことで、運営面で公平・中立性が確保されたことはたいへん評価できる点である。

本番に向けて、「市民コーディネーター養成講座」の開催から約10ヶ月の期間をかけて準備を進めてきたことが、当日の円滑な運営につながった。まちづくりディスカッションの開催は三鷹市で4回目ということで手法は確立されてきたため、会議の開催数も少なくすることができた。

3 全体スケジュール

全体として効率よくすすめられたと思うが、実行委員会の立ち上げが、「市民コーディネーター養成講座」が終了してから3ヶ月ほど経過していたため、その期間を有効に使う工夫があってもよかった。プログラム設計や情報提供者との打ち合わせ等については、もう少し早目に決定できればよかった。無作為抽出の手続きについては、参加承諾者の数の予想が難しいため、念のため2回抽出できるだけの余裕をみてスケジュールを組んだ方がよい。

4 人員配置・役割分担

人員配置については適切であったとの意見が多かったが、具体的な受付の手順や方法など細かな点で本番当日までに徹底できていない部分もあった。時間的余裕があれば、各役割ごとの事前打ち合わせをした方がよかった。

5 会場設営

今回は、三鷹産業プラザの7階のすべてを会場とした。限られたスペースではあったが、会議室とホール、廊下も含め、上手に利用できた。広さに余裕があれば、グループのテーブルとテーブルの間はもっとスペースが取ればよかった。会議室の間仕切りが防音になっていれば、なおさらよい。参加者とスタッフを合わせて150人近い人数が参加したことを考えると、与えられた条件の中ではレイアウトや動線の確保等々、最適の配置であったと言える。ただし、今回の人数が最大である。三鷹産業プラザを会場とすることは、交通の便、空調、その他設備などの条件からして適当であった。

6 参加人数

今回は、参加者100人を想定し、円滑な運営や実効性の高い結果を求める中で、4つのテーマに分かれ、1つのテーマに25人（5人×5グループ）という運営イメージを固めていった。実際に1テーマ25人は適切な人数であった。4テーマについては、事前に出された希望にできるだけ沿うよう配慮したが、たまたま欠席者がテーマにより偏りがあったため、4つのうち2つのテーマでは、それぞれ4グループでの話し合いとなった。

IV 検証と評価（開催後の取り組み編）

1 報告書

いただいた意見を基本計画に反映させるため、話し合いの結果として90枚の模造紙からのデータ入力を2週間程度で行ったことは、かなりの作業量であるため、今後も入力作業のあり方を考慮する必要がある。検証と評価のための実行委員会をまちづくりディスカッション終了から時間をおかずに開催した方がよかった。

2 事後のフォロー

まちづくりディスカッションで出された意見がどのように反映されたのかを広く周知することが大切である。また、参加者の「今後機会があれば、市政に参加したい」との意欲が活かされる取り組みが必要である。

第4章 第4次三鷹市基本計画「骨格案」に係る市民意見への対応について

I 市民意見への対応について

今回の対応表は、各テーマの「第5回話し合い」でまとめられたご意見に対応する市の公開している情報をもとにした対応表を掲載した。

班	No.	まとめの意見（模造紙）	発表のコメントで補足	施策
A 1	①	緑を増やすのは賛成ですが、交通量が增多ることに対する配慮（公害）が必要 外環道路について	外環道ができることで緑が増えるのは賛成ですが、交通量が增多ることに対して公害対策などの配慮が必要である	3-1 安全で快適な道路の整備
	②	国に頼らない三鷹市独自の防災対策及び女性視点からの防災（空き屋が増えている）	ごみ焼却施設から電力の供給が受けられるようにするなど、三鷹市独自の防災対策が必要である	3-4 災害に強いまちづくりの推進
			災害発生時の避難所でトイレや更衣室などに関して、女性の視点で配慮した防災対策を講じることが必要	3-4 災害に強いまちづくりの推進
			増加している空き家もふくめてほしい	3-3 住環境の改善 ②安全安心のまちづくり
③	市内でも、不便な場所が多いので、バランスのとれた町づくり、コミュニティバス、保育サービス、小学校の場所	市内どこに住んでいても、不便を感じることはないよう、コミュニティバスや保育サービス・学校の場所などバランスのとれたまちづくりを進めてほしい	3-5 都市交通環境の整備	
A 2	①	災害時の市の指針を周知する	災害時の市の指針を周知する	3-4 災害に強いまちづくりの推進
	②	サポーターの意思表示マーク	サポーターの意思表示マークを作るなどの活動に対する支援をしてほしい	5-2 高齢者福祉の充実
	③	三鷹シティーバスの料金を100円にする！	三鷹シティーバスの料金を100円にしてほしい	3-5 都市交通環境の整備
A 3	①	情報発信ステーションの設置（駅前など）	駅前などに情報発信ステーションを設置してほしい	5-1 地域福祉の推進
	②	コミュニティバスを増やし、安くする（交流の機会増加）	市民の交流の機会を増やすためにコミュニティバスを増発し、料金を下げて欲しい	3-5 都市交通環境の整備
	③	参加しやすいボランティアのすすめプロジェクト（気軽なお手伝い）	ニーズと供給がマッチングするように、誰でも気軽に手伝えるような参加しやすい「ボランティアのすすめプロジェクト」が必要である	5-1 地域福祉の推進

計画への意見	方針	市の対応の内容
東京外かく環状道路の整備事業については、周辺のまちづくりやみちづくりをはじめ、環境への配慮など国や東京都に必要な事項についてしっかりと要請してほしい。	① 素案に盛り込みます。	国・東京都が示した「対応の方針」が確実に実施されるよう強く要請するとともに、引き続き多岐にわたる課題について柔軟に対応できるよう三鷹市独自の視点も交えた検討を進め、環境配慮などについても適切な対応が図られるよう国や東京都に強く要望していきます。
災害時の市民への適切な情報伝達、飲料水・生活用水の提供、車両・自家発電燃料の確保、帰宅困難者対応を図ってほしい。	② 素案に趣旨を反映します。	緊急時等における市民への情報伝達体制を確立するとともに、備蓄倉庫の物資の充実及び帰宅困難者への対応について推進していきます。
防災施策にかかわるところに、男女平等参画、女性の視点を入れるべき。	① 素案に盛り込みます。	男女平等参画の視点を取り入れた防災対策を推進していきます。
空き家等対策をしてほしい。	① 素案に盛り込みます。	今後調査、研究を重ね、条例の制定も含めた対策に取り組んでいきます。
コミュニティバスについては、新ルートの運行開始や既存ルートの見直し、運行時間延長や増発も含めてさまざまな方法で充実をしてほしい。	① 素案に盛り込みます。	みたかバスネットの推進の中で路線バスと補完交通としてのコミュニティバスの役割分担を踏まえて、地域特性に合ったコミュニティバスの運行を進めます。
災害時の市の指針を周知してほしい。	① 素案に盛り込みます。	今後改定予定の地域防災計画を通し、市の災害時の指針等を広く周知していきます。
認知症サポーター講座を修了した人が、活動できる場の確保をしてほしい。	⑤ その他	「福祉人財の養成と活動支援」の中で、地域ケアネットワーク活動に参加していただくなど、福祉人財の活動を支援します。なお、この講座、認知症の正しい基礎知識と理解を培う啓発講座です。講座を修了した方は認知症の人や家族を温かく見守る応援者としての活動をお願いします。
コミュニティバスの運賃を100円にするなど現在より値下げしてほしい。	③ 対応は困難です。	路線バスとコミュニティバスのルートが輻輳している本市の特徴から利用料金の値下げは困難な状況です。
コミュニティ創生、地域ケアネットワーク事業の周知を図るため、PR施設を設置すべきである。	② 素案に趣旨を反映します。	現時点でPR施設を設置することは想定していませんが、既存の公共施設等を活用しながら積極的に事業のPRに取り組みます。
コミュニティバスについては、新ルートの運行開始や既存ルートの見直し、運行時間延長や増発も含めてさまざまな方法で充実をしてほしい。	① 素案に盛り込みます。	みたかバスネットの推進の中で路線バスと補完交通としてのコミュニティバスの役割分担を踏まえて、地域特性に合ったコミュニティバスの運行を進めます。
ボランティア活動について、誰でも気軽に手伝えるような参加しやすい制度をつくってほしい。	④ 事業実施の中で検討します。	「ボランティア活動の推進」の中で、積極的に事業のPRをするとともに、より多くの方に参加していただけるような手法等を検討します。

班	No.	まとめの意見（模造紙）	発表のコメントで補足	施策
A 4	①	ボランティア活動の推進 募集、登録、運用、のシステムの充実	何をして良いのかわからない、どこに行けばいいのかわからないといった人が自分の提供できる能力を登録できる制度や、報酬としての地域通貨などボランティア活動の推進 募集、登録、運用などのシステムを充実して欲しい	5-1 地域福祉の推進
	②	三鷹市民の居場所づくり（市民ガーデン、市民バー etc.）	いつでも誰でも立ち寄って交流できる市民ガーデンや市民バーなどの三鷹市民の居場所を作って欲しい	8-1 コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進
	③	交通安全重点施策 自転車対策 通行区分の明確 ルールとマナーの教育 バリアフリー化	交通安全の観点からのバリアフリー化を進めて、狭い歩道や自転車の対策などに取り組んでほしい	3-1 安全で快適な道路の整備
A 5	①	同世代、世代間の交流促進（第一歩としてディスカッションの機会を多く作る）	同世代や、異なる世代間の交流が促進されるように、まず第一歩としてディスカッションの機会を多く作ってほしい	5-1 地域福祉の推進 5-2 高齢者福祉の充実 6-2 子育て支援の充実
	②	高齢者や子育て世代にとっての利便性の向上（マイクロバスできめ細かなルート作り。ベンチの設置。子育て支援の充実・個人宅への出張サービス）	高齢者や子育て世代にとっての利便性を向上するため、マイクロバスできめ細かなルート作りや、停留所にベンチを設置したりして子育て支援を充実してほしい	3-1 安全で快適な道路の整備
	③	高齢者の生きがいの場。（仕事場など、活躍できる機会の提供）	高齢者の生きがいの場として仕事場など活躍できる機会を提供するべき	5-2 高齢者福祉の充実（2-5 消費生活の向上）
B 1	①	小さい時からの防災教育	小さい時からの防災教育を行う必要がある	3-4 災害に強いまちづくりの推進
	②	地域ネットワークの構築（コミュニティセンターの活用）	コミュニティ・センターを活用した地域ネットワークの構築が必要	8-1 コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進
	③	公共のミニバスを増やす。（100円）（EV車）	100円で乗車できる公共のミニバスを増やす 電気で走る公共のミニバスを増やす	3-5 都市交通環境の整備 3-5 都市交通環境の整備
B 2	①	【理念】自然と利便性のバランスが取れ、長く住める街「私の町」の意識（子供から老人まで）	【理念】自然と利便性のバランスが取れ、長く住める街「私の町」の意識（子どもから高齢者まで）	4-1 環境保全の推進
	②	【ソフト】多様な世帯に配慮したコミュニティ、ネットワーク作りの支援	【ソフト】多様な世帯に配慮したコミュニティ、ネットワーク作りの支援	5-1 地域福祉の推進 5-2 高齢者福祉の充実 6-2 子育て支援の充実
	③	【ハード】交通網・道路・森（大気）公共建築物（公園・避難所）の充実	【ハード】交通網・道路・森（大気）公共建築物（公園・避難所）の充実	3-5 都市交通環境の整備

計画への意見	方針	市の対応の内容
ボランティア活動について、誰でも気軽に手伝えるような参加しやすい制度をつくってほしい。	④ 事業実施の中で検討します。	「ボランティア活動の推進」の中で、積極的に事業のPRをするとともに、より多くの方に参加していただけるような手法等を検討します。
市民が交流しやすい場所や市民参加の機会を増やし、コミュニティの活性化を図ってほしい。	② 素案に趣旨を反映します。	「コミュニティ活動の新たな展開に向けた取り組み」の中で、コミュニティのさらなる活性化や新たなコミュニティ活動について、関係団体と連携して検討を進めます。
障がい者や高齢者、小さい子どもとその保護者などに配慮したまちづくり、みちづくりを進めてほしい。	① 素案に盛り込みます。	「バリアフリーのまちづくり基本構想2022」に基づき推進する道路の整備の中で、段差の解消や、視覚障害者誘導用ブロックの布設など誰もが安心して通行できるみちづくりを推進します。
世代間交流（高齢者と子ども）する場がほしい。	① 素案に盛り込みます。	「地域交流、世代間交流の推進」の中で、コミュニティ住区、学校、ボランティア団体、NPO、高齢者施設・障がい者施設等の福祉施設等との連携や協力のもとに地域交流・世代間の交流を促進し、地域の中で支え合う環境づくりに努めます。
誰でも気軽に外出できるようにするために、バス停への屋根やベンチの設置を進めてほしい。	① 素案に盛り込みます。	バス停施設の高品質化を進めるなかで対応していきます。
高齢者の働く場を確保してほしい。	① 素案に盛り込みます。	高齢者就業支援事業（わくわくサポート三鷹）を推進するとともに、シルバー人材センター等の関係機関との連携を強化するなど、雇用の機会の確保を図ります。
子どもの防災力を高めるために、小さいころから「生きる力」自ら考え行動できる子どもを育てる必要がある。	② 素案に趣旨を反映します。	防災講演会や防災キャンプなどを実施し、子どもの防災力向上を推進していきます。
コミュニティ・センターを中心として、地域の情報や災害時の情報を発信する仕組みを作ってほしい。	④ 事業実施の中で検討します。	コミュニティ・センターが地域の情報発信拠点として活用されるよう、今後の施設運営の中で検討していきます。
コミュニティバスの運賃を100円にするなど現在より値下げしてほしい。	③ 対応は困難です。	路線バスとコミュニティバスのルートが輻輳している本市の特徴から利用料金の値下げは困難な状況です。
コミュニティバスについては、新ルートの運行開始や既存ルートの見直し、運行時間延長や増発も含めてさまざまな方法で充実してほしい。	① 素案に盛り込みます。	みたかバスネットの推進の中で路線バスと補完交通としてのコミュニティバスの役割分担を踏まえて、地域特性に合ったコミュニティバスの運行を進めます。
低炭素社会を目指して、市民が意識をもって環境問題などに取り組んでいけるようなまちづくりを進めてほしい。	② 素案に趣旨を反映します。	「サステナブル都市研究の推進」の中で、三鷹市における持続可能なまちづくりについて、研究・検討を進めていきます。
世代間交流（高齢者と子ども）する場がほしい。	① 素案に盛り込みます。	「地域交流、世代間交流の推進」の中で、コミュニティ住区、学校、ボランティア団体、NPO、高齢者施設・障がい者施設等の福祉施設等との連携や協力のもとに地域交流・世代間の交流を促進し、地域の中で支え合う環境づくりに努めます。
総合的な公共交通の仕組みづくりをしてほしい。また、自転車を快適に利用できるよう、道路、交通安全に重点的な取り組みをしてほしい。	① 素案に盛り込みます。	誰もが安全で快適に移動できる「都市交通安全プロジェクト」を6つ目の重点プロジェクトに追加し、重点的に取り組みを進めます。また、「交通総合協働計画2022」の策定により、地域に暮らす誰もが安全で安心して快適に移動できる地域公共交通の整備に取り組みます。

班	No.	まとめの意見（模造紙）	発表のコメントで補足	施策
B 3	①	・【防災訓練】積極的参加への工夫。楽しくやろう！！ ・縁日と融合させた防災祭り（税金使用をアピール）（会場で炊き出しを行う）（3月11日防災ズキンをかぶってイベントする etc.）	・【防災訓練】積極的参加への工夫。楽しくやろう！！ ・縁日と融合させた防災祭り（税金使用をアピール）（会場で炊き出しを行う）（3月11日防災ズキンをかぶってイベントする etc.）	3-4 災害に強いまちづくりの推進
	②	・【防災啓蒙活動】 ・ケーブルTVを利用して（キャラクターはpokiを起用！！）番組をつくる。☆新聞やポスター etc.をつくる。	・【防災啓蒙活動】 ・ケーブルTVを利用して（キャラクターはPokiを起用！！）番組をつくる。☆新聞やポスター etc.をつくる	3-4 災害に強いまちづくりの推進
	③	・【行政にやってほしい事。】 ・道路整備において自転車などの通行帯をつくってほしい。 ・アスファルトを透水性のあるものに変えてほしい。	・【行政にやってほしい事。】 ・道路整備において自転車などの通行帯をつくってほしい。 ・アスファルトを透水性のあるものに変えてほしい	3-1 安全で快適な道路の整備
B 4	①	町の防災推進者を育成する制度を	町の防災推進者を育成する制度を	3-4 災害に強いまちづくりの推進
	②	市役所から災害情報伝達方法拡充	市役所から災害情報伝達方法拡充	3-4 災害に強いまちづくりの推進
	③	防災シンボルの設置（避難所の活用）	防災シンボルの設置（避難所の活用）	3-4 災害に強いまちづくりの推進
C 1	①	地場産業や企業のコラボレーション（農業と商業のコラボ、異業種企業でのコラボ etc.）	地場産業や地元企業の異業種（農業と商業など）のコラボレーションにより、ジブリ美術館以外の三鷹の特色を出してほしい	2-3 都市型産業の育成
	②	三鷹のブランドを決める（キャラクター、お菓子、イベント etc.）	キャラクターや名産、イベントなどにより今はまだ固まっていない三鷹のブランドを決めてPRして行って欲しい	2-3 都市型産業の育成
	③	世代間コミュニケーションを取れる場所（今回のような機会、気軽に集まれる場所）	今回のような企画などにより、世代間のコミュニケーションが取れる場所・機会を作してほしい	5-1 地域福祉の推進 5-2 高齢者福祉の充実 6-2 子育て支援の充実

計画への意見	方針	市の対応の内容
防災計画については、市外に働きに出ている人への情報提供や学校と縁のない市民が、避難場所である学校に避難しやすいよう工夫することが必要である。	①素案に盛り込みます。	防災情報の積極的な提供と防災意識の啓発を行うことで、情報の提供だけでなく、災害に対する意識も高めていきます。
防災計画については、市外に働きに出ている人への情報提供や学校と縁のない市民が、避難場所である学校に避難しやすいよう工夫することが必要である。	①素案に盛り込みます。	防災情報の積極的な提供と防災意識の啓発を行うことで、情報の提供だけでなく、災害に対する意識も高めていきます。
安全に自転車が通行できるような道路を整備すると同時に、スピードが出過ぎないような工夫や、歩行者が安心して歩ける道との分離など、人も車も自転車も安全に通れるみちづくりを進めてほしい。	①素案に盛り込みます。	「自転車走行空間のネットワーク化の検討及び整備の推進」の中で、かえで通りの運用状況の検証を踏まえて誰もが安全に安心して通ることのできるみちづくりにむけた取り組みを進めます。
防災計画については、市外に働きに出ている人への情報提供や学校と縁のない市民が、避難場所である学校に避難しやすいよう工夫することが必要である。	①素案に盛り込みます。	防災情報の積極的な提供と防災意識の啓発を行うことで、情報の提供だけでなく、災害に対する意識も高めていきます。
防災都市基盤・拠点を整備してほしい。	②素案に趣旨を反映します。	防災センター機能を備えた新川防災公園・多機能複合施設（仮称）整備事業に取り組みます。災害に強いまちづくりの前提となる都市構造として、都市計画道路等で囲まれた「防災ブロック（まちづくりブロック）」を形成することにより、延焼遮断帯や避難ルート等を確保します。また、避難所となる学校施設やコミュニティ・センターなどの防災拠点化を進めます。
防災都市基盤・拠点を整備してほしい。	②素案に趣旨を反映します。	防災センター機能を備えた新川防災公園・多機能複合施設（仮称）整備事業に取り組みます。災害に強いまちづくりの前提となる都市構造として、都市計画道路等で囲まれた「防災ブロック（まちづくりブロック）」を形成することにより、延焼遮断帯や避難ルート等を確保します。また、避難所となる学校施設やコミュニティ・センターなどの防災拠点化を進めます。
市内産業のPRにつながる取り組みを進めてほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「産業に対する理解増進」の中で、市内産業をPRする観光ルートや体験学習などの取り組みを検討していきます。
市内産業の特色ある取り組みによってブランド化を向上させ、PRしてほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「経営基盤の強化」の中で、市内産業の付加価値向上を目指し、観光資源等と連携し、三鷹ブランドの展開につながる取り組みを検討します。
世代間交流（高齢者と子ども）する場がほしい。	①素案に盛り込みます。	「地域交流、世代間交流の推進」の中で、コミュニティ住区、学校、ボランティア団体、NPO、高齢者施設・障がい者施設等の福祉施設等との連携や協力のもとに地域交流・世代間の交流を促進し、地域の中で支え合う環境づくりに努めます。

班	No.	まとめの意見（模造紙）	発表のコメントで補足	施策
C-2	①	武蔵野市と合併して、東京都の第24区目になる。	隣接する近隣自治体と連携して住民サービスの向上を図るなど、柔軟な発想で行政運営をしていくべきである	8-2「21世紀型自治体」の実現と都市自治の確立
	②	学生で卒業して社会人として三鷹に定住（最低4年）したら住民税を免除する	定住人口を増やすため、学生で卒業して社会人として三鷹に定住（最低4年）したら住民税を免除する制度を作してほしい	総論
	③	学校の授業を夜7:00までにして、早番遅番にして高齢者（シニア）世代の雇用と学童保育の解消 保育の待機児童の解消にもなる	学校の授業を夜7:00までにして、早番遅番にして高齢者（シニア）世代の雇用と学童保育や保育園の待機児童解消を両立してほしい	6-2 子育て支援の充実
C-3	①	◎交通インフラ整備の具体化 ・シェアサイクル ・新交通の導入	三鷹市全域の移動利便性を高めるために、交通インフラ整備の具体化や、シェアサイクルの実施、駐輪場の整備、ガソリンを使用しない新交通の導入などを進めてほしい	3-5 都市交通環境の整備
	②	ビジネスモデル構築のコーディネート ・市民ファンド 見学ツアーイベント（工場、文学）	市民ファンドを作り、それを原資にビジネスモデル構築のコーディネートをしたり、現在ある地域の観光資源の見学ツアーイベントなどを実施してほしい	2-3 都市型産業の育成
	③	☆農業のブランド化 ・差別化 ・エコ ・安全性（放射能）・工業と協業	放射能など不安な材料がある現代だからこそ、三鷹市の農業をブランド化してほしい	2-2 都市型農業の育成
C-4	①	観光と商業の発展を充実させる。	三鷹の良さを伸ばす形で「三鷹らしい観光と商業を発展・充実」させてほしい	2-3 都市型産業の育成
	②	三鷹の魅力をもっとピーアールして！	いくら良いことをしていても知られなければ誰も来てくれないので、広報の充実などにより三鷹の魅力をもっとピーアールしてほしい	2-1 情報環境の整備
	③	人と人とのつながりを大切にしたい街づくりを！	世代間交流というソフト面や、公園整備などハード面などの取り組みも人と人とのつながりを大切にしているという根底を大切にしたいまちづくりを進めてほしい	5-1 地域福祉の推進 5-2 高齢者福祉の充実 6-2 子育て支援の充実
C-5	①	みたか市民にもっと三鷹市のことを知ってもらう為に広報みたか（ネットを含む他媒体）の有効活用をする！	みたか市民自身ももっと自分の住む三鷹市のことを知ってもらう為に広報みたか（ネットを含む他媒体）の有効活用をする！	2-1 情報環境の整備
	②	ジブリ美術館を核とした観光ルートマップの整備・宣伝／（三鷹存中者以外の）知らない人がきてもわかりやすいようなもの ジブリキャラクターを活用したもらって帰りたくなるマップの作成	ジブリ美術館を核とした観光ルートマップの整備・宣伝を充実して、三鷹在住者以外の人に来てわかりやすいような取り組みを進めてほしい。例えばジブリキャラクターを活用したもらって帰りたくなるマップの作成	7-3 芸術・文化のまちづくりの推進
	③	遊休地の有効利用（シンボルの作成など）	遊休地を有効に利用して三鷹市のシンボリックなものを作成するなどしてほしい	2-3 都市型産業の育成

計画への意見	方針	市の対応の内容
住民の生活圏を意識し、近隣自治体と連携した施策展開をするべきである。	①素案に盛り込みます。	「広域的都市連携の強化」の中で、引き続き近隣自治体と文化、スポーツ施設などの公共施設の相互利用など取り組みを進めます。
人口減少時代に対応した生産年齢人口層に選ばれるまちづくりを推進してほしい。	①素案に盛り込みます。	若い世代に住みたいと思われるまちをつくるためにも、子育て支援施策や教育施策について充実します。さらに、企業誘致や優良な住宅開発の誘導を図ることで、生産年齢人口層に選ばれるまちづくりを推進します。
学童保育や保育園の待機児童を解消するため、高齢者（シニア）世代を雇用してほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「地域の子育て力の向上」の中で、子育てサポーター等の子育て人財として活躍してもらうなど、協働型地域子育て環境の充実を図ります。
総合的な公共交通の仕組みづくりをしてほしい。また、自転車を快適に利用できるよう、道路、交通安全に重点的な取り組みをしてほしい。	①素案に盛り込みます。	誰もが安全で快適に移動できる「都市交通安全プロジェクト」を6つ目の重点プロジェクトに追加し、重点的に取り組みを進めます。また、「交通総合協働計画2022」の策定により、地域に暮らす誰もが安全で安心して快適に移動できる地域公共交通の整備に取り組みます。
市内産業のPRにつながる取り組みを進めてほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「産業に対する理解増進」の中で、市内産業をPRする観光ルートや体験学習などの取り組みを検討していきます。
市内産の農産物のブランド化を進めてほしい。	①素案に盛り込みます。	「農業経営の改善」、「農産物のブランド化の支援」の中で、農産物の高品質化と付加価値を高め、三鷹産農産物のブランドの向上と流通の拡大に取り組みしていきます。
市内産業のPRにつながる取り組みを進めてほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「産業に対する理解増進」の中で、市内産業をPRする観光ルートや体験学習などの取り組みを検討していきます。
あらゆる情報格差の是正に向けた取り組みを推進してほしい。	①素案に盛り込みます。	広報紙、市民便利帳の内容を充実するとともに、誰もが使いやすいホームページづくりをめざします。また、あらゆる世代がICT（情報通信技術）を活用できるよう取り組みを進めます。
世代間交流（高齢者と子ども）する場がほしい。	①素案に盛り込みます。	「地域交流、世代間交流の推進」の中で、コミュニティ住区、学校、ボランティア団体、NPO、高齢者施設・障がい者施設等の福祉施設等との連携や協力のもとに地域交流・世代間の交流を促進し、地域の中で支え合う環境づくりに努めます。
あらゆる情報格差の是正に向けた取り組みを推進してほしい。	①素案に盛り込みます。	広報紙、市民便利帳の内容を充実するとともに、誰もが使いやすいホームページづくりをめざします。また、あらゆる世代がICT（情報通信技術）を活用できるよう取り組みを進めます。
芸術・文化を高め、三鷹のブランドの向上を図る取り組みを進めてほしい。	①素案に盛り込みます。	「観光施策と連携した芸術・文化事業の推進」の中で、三鷹ゆかりの文化人の顕彰や芸術・文化に親しむための事業を展開していきます。
市内産業のPRにつながる取り組みを進めてほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「産業に対する理解増進」の中で、市内産業をPRする観光ルートや体験学習などの取り組みを検討していきます。

班	No.	まとめの意見（模造紙）	発表のコメントで補足	施策
D 1	①	基本計画のスケジュール化、モニタリング、地域化	基本計画のスケジュール化、モニタリング、地域化	総論
	②	時間制導入	時間制による区分けを導入して、自動車の通行を規制したり、バスレーンとして使う	3-5 都市交通環境の整備
	③	みたかP o k iカード	みたかP o k iカードを作り、ボランティアのポイントを貯めたり、農作物を買ったり、バスに乗れたりするシステムに利用する。ボランティアのデータ化も可能となる	2-4 商業環境の整備
D 2	①	わかりやすく、伝わるP R みやすいP R、見やすい場所、メール配信など	行政情報をわかりやすく、伝わるようにP Rしてほしい。必要な情報がどこにあるのか分からないので、見やすいP Rや、見やすい場所の工夫、メール配信などの手段を活用してほしい。	2-1 情報環境の整備
	②	地域コミュニティ連携の促進助けが必要な方の情報共有と互助、子育て情報、行政と市民の連携	地域コミュニティ連携の促進。助けが必要な方の情報共有と互助、子育て情報、行政と市民の連携	8-1 コミュニティの展開と協働のまちづくりの推進
	③	交通改革 車道、自転車道、歩道の整備、一方通行、バス拡充（路線・本数）	交通改革 車道、自転車道、歩道の整備、一方通行、バス拡充（路線・本数）	3-1 安全で快適な道路の整備
D 3	①	自動車レーン、コミュニティバスの充実	自動車レーン、コミュニティバスの充実	3-5 都市交通環境の整備
	②	市民の土地利用（市民農園、緑化、植樹など）	市民の土地利用（市民農園、緑化、植樹など）	3-2 緑と水の快適空間の創造
	③	三鷹市の景観（カンバン 電柱）	三鷹市の景観を大切にするためには、看板や電柱広告なども含めて一定の規制も必要である	3-3-1 住環境の改善
D 4	①	市の提案は市民が優先順位をつけて選らぶ	市の取り組みについては、わかりやすい優先順位をつけて取り組みを進めるべきである	総論
	②	道路の時間規制を設ける（一通にする）	道路の時間規制を設ける（一方通行にする）	3-5 都市交通環境の整備

計画への意見	方針	市の対応の内容
計画の進行管理、評価、見直しを着実に実施してほしい。	①素案に盛り込みます。	基本計画の各施策や主要事業等を対象とした行政評価の仕組みとして、自治体経営白書による成果の公表、施策評価、「各部の運営方針と目標」の設定などの取り組みを引き続き行います。
コミュニティバスについては、新ルートの運行開始や既存ルートの見直し、運行時間延長や増発も含めてさまざまな方法で充実してほしい。	①素案に盛り込みます。	みたかバスネットの推進の中で路線バスと補完交通としてのコミュニティバスの役割分担を踏まえて、地域特性に合ったコミュニティバスの運行を進めます。
市内商業を活性化し魅力ある商店街づくりを進めてほしい。	①素案に盛り込みます。	「商店街の活性化への支援」の中で、便利に買物ができるような買物環境の整備や商店街の振興などの商業環境の整備を進めます。
あらゆる情報格差の是正に向けた取り組みを推進してほしい。	①素案に盛り込みます。	広報紙、市民便利帳の内容を充実するとともに、誰もが使いやすいホームページづくりをめざします。また、あらゆる世代がICT（情報通信技術）を活用できるよう取り組みを進めます。
市民が交流しやすい場所や市民参加の機会を増やし、コミュニティの活性化を図ってほしい。	②素案に趣旨を反映します。	「コミュニティ活動の新たな展開に向けた取り組み」の中で、コミュニティのさらなる活性化や新たなコミュニティ活動について、関係団体と連携して検討を進めます。
自転車専用レーンはもっと整備した方が良く、速度を出す人がいるなどかえって危険な一面もあるので、一方通行化など安全に配慮した方が良く。	②素案に趣旨を反映します。	「自転車走行空間のネットワーク化の検討及び整備の推進」の中で、より多くの市民の方にとって安全であると同時に利便性の高いみちとなるよう検討していきます。
コミュニティバスについては、新ルートの運行開始や既存ルートの見直し、運行時間延長や増発も含めてさまざまな方法で充実してほしい。	①素案に盛り込みます。	みたかバスネットの推進の中で路線バスと補完交通としてのコミュニティバスの役割分担を踏まえて、地域特性に合ったコミュニティバスの運行を進めます。
今ある緑を大切に開発などで消えてしまわないようにしっかり守ってほしい	①素案に盛り込みます。	緑と水の公園都市の実現にむけて様々な取り組みを進めるなかで現在ある緑の維持保全と、新たな緑の創出・育成及び緑の質的向上を図っていきます。
生活に支障をきたすような種類の店の進出については規制をしたり、まちなみを乱すような看板等屋外広告についても規制してほしい	②素案に趣旨を反映します。	各種制度を活用しながら、良好な住環境の形成と維持を図っていきます。
施策の重点化、優先順位をつける必要がある。	①素案に盛り込みます。	素案では、「第Ⅱ編 主要課題の展開」において、最重点・緊急・重点プロジェクトの具体的な内容を明らかにします。また、事業については、主に計画前期に重点的に取り組む主要事業とそれに準じる推進事業の区分を設けるなど、重点化を図っています。
総合的な公共交通の仕組みづくりをしてほしい。また、自転車を快適に利用できるよう、道路、交通安全に重点的な取り組みをしてほしい。	①素案に盛り込みます。	誰もが安全で快適に移動できる「都市交通安全プロジェクト」を6つ目の重点プロジェクトに追加し、重点的に取り組みを進めます。また、「交通総合協働計画2022」の策定により、地域に暮らす誰もが安全で安心して快適に移動できる地域公共交通の整備に取り組みます。

II 三鷹市ホームページでの反映状況の確認方法

三鷹市公式ホームページアドレス <http://www.city.mitaka.tokyo.jp/>

1 三鷹市の公式ホームページのトップページから入ります。

市政情報を選択します。



2 市政への参加 パブリックコメントを選択します。



- 3 パブリックコメントのページ画面を下の方にスクロールすると、第4次三鷹市基本計画骨格案(以下、骨格案といいます。)があります。骨格案がない場合は、平成23年度を選択した後に、画面をスクロールさせていただくと骨格案があります。



- 4 骨格案を選択します。



- 5 骨格案のページ画面を下の方にスクロールすると、第4次三鷹市基本計画「骨格案」に係る市民意見への対応についてがあります。



- 6 第4次三鷹市基本計画「骨格案」に係る市民意見への対応を選択します。
 なお、こちらの市民意見への対応をご覧くださいためにはPDFのソフトが必要になります(同ページで無料でダウンロードすることができます)。

